

豊かさを実感できる海の再生事業

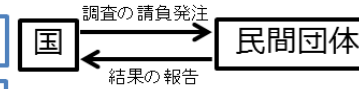
平成28年度予算額
135百万円 (70百万円)

背景・目的

- 瀬戸内海等の閉鎖性海域では、水質は全体として改善傾向である一方、赤潮や貧酸素水塊等の問題も依然発生。
- 生物多様性・生物生産性が確保された「豊かな海」の観点から、藻場・干潟の保全・再生、栄養塩類の適切な管理、気候変動による影響把握等の重要性が指摘されるなど、新たな課題への対応が求められている。
- 平成27年2月に『瀬戸内海環境保全基本計画』が閣議決定され、新たな課題への対応を含め「豊かな海」を目指した施策を推進していくこととされた。

新たな課題に対応した調査・検討が必要！

事業スキーム



事業目的・概要等

事業概要

1. 里海づくり活動促進
2. 底質蓄積・溶出メカニズム調査
3. 気候変動の栄養塩類への影響把握等

期待される効果

瀬戸内海等を対象として「豊かな海」の観点から重要な調査・検討等を行い、科学的な知見に基づく適切な海域管理方策をとりまとめるとともに、各海域における里海など「豊かな海」に向けた各種取組を促進する。

平成27年度～

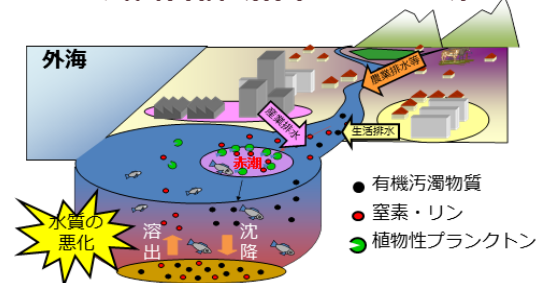
1. 里海づくり活動促進



- モデル海域（瀬戸内海）における藻場・干潟の分布調査。
- 様々な水質改善技術の効果等を定量的に把握。

平成27年度～

2. 底質蓄積・溶出メカニズム調査

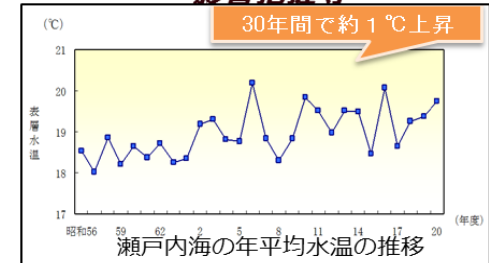


- 底質環境の総合的な調査により現況を把握し、過去の調査結果と比較・分析。
- 底質からの、栄養塩類等の海中への溶出メカニズムを分析・検討。

<新規>
平成28年度～

イメージ

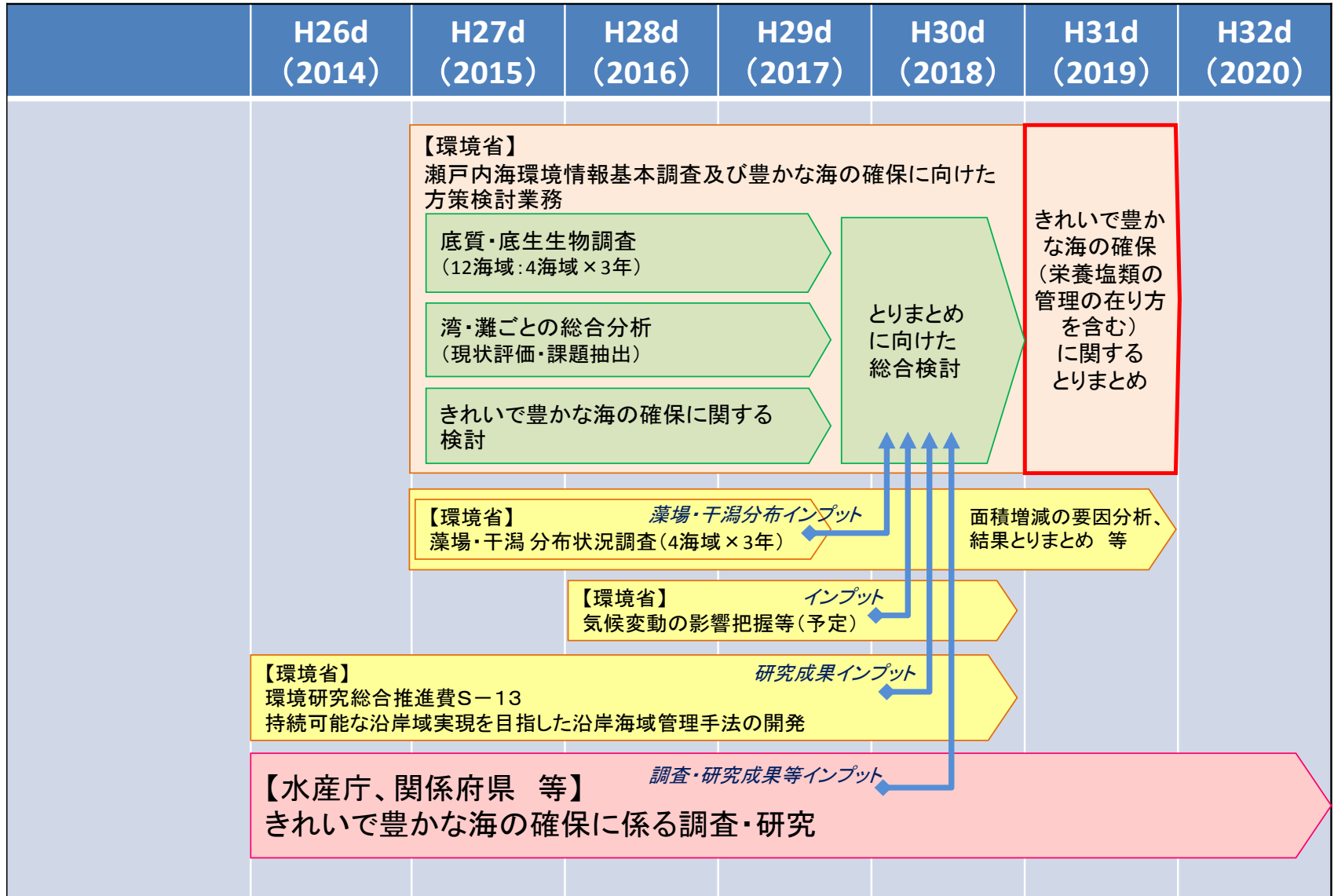
3. 気候変動の栄養塩類への影響把握等



- 気候変動による影響（水質（栄養塩類等）、生物多様性・生物生産性）の把握。
- 影響を踏まえた適応策の検討。

「豊かな海」の観点から、海域ごとの実情に応じた海域管理の実現

きれいで豊かな海の確保に関するとりまとめに係る工程表(案)



I 底質・底生生物調査（第4回）について

1. 調査の位置付け

瀬戸内海全域での底質及び底生生物調査は、「瀬戸内海環境情報基本調査」として過去に3回実施されており（第1回：昭和56～60年度、第2回：平成3～6年度、第3回：平成13～16年度）、本調査では、これらの過年度の調査結果との整合性に留意しつつ、最新の知見も踏まえて底質及び底生生物の実態調査を行う。

表1 第1～3回調査の地点数及び調査時期

海 域	第1回調査(S56～60)		第2回調査(H3～6)		第3回調査(H13～16)	
	地点数	調査時期	地点数	調査時期	地点数	調査時期
紀伊水道	62	S60.7.17～7.17	28	H4.8.1～8.11	28	H14.8.5～8.9
大阪湾	48	S59.7.17～7.23	31	H5.8.1～8.5	31	H15.8.1～8.5
播磨灘	134	S56.7.16～8.2	68	H3.8.10～8.22	68	H13.8.6～8.18
備讃瀬戸	36	S59.7.25～7.28	28	H4.8.13～8.22	28	H14.8.10～8.14
備後灘	26	S59.7.28～8.6	15	H4.8.13～8.23	15	H14.8.13～8.18
燧灘	57	S56.8.5～8.10	33	H3.8.19～8.30	33	H13.8.23～8.27
安芸灘	33	S59.8.6～8.12	15	H6.8.11～8.15	15	H16.8.3～8.5
広島湾	47	S57.7.15～7.19	23	H5.8.26～8.29	23	H15.8.7～8.9
伊予灘	139	S58.7.20～8.10	45	H5.8.11～8.25	45	H15.8.14～8.23
周防灘	150	S57.7.21～8.8	92	H6.8.3～8.25	92	H16.8.7～8.27
豊後水道	95	S60.7.30～8.11	29	H4.8.25～8.30	29	H14.8.19～8.24
別府湾	18	S58.8.10～8.13	8	H3.8.24～8.24	8	H13.8.30～9.4
響灘	13	S58.8.14～8.18	10	H5.8.15～8.16	10	H15.8.11～8.12
合 計	858	—	425	—	425	—

備考) 第1回調査は底質調査のみ。第2回調査の響灘の底生生物調査は7地点。

2. 調査計画

調査期間は平成27～29年度の3年間とし、瀬戸内海を3ブロック（東部、中部、西部）に区分し、1年につき1ブロックの調査を実施する。

- 平成27年度 紀伊水道、大阪湾、播磨灘、備讃瀬戸
- 平成28年度（予定） 備讃瀬戸（一部）、備後灘、燧灘、安芸灘、広島湾、伊予灘
- 平成29年度（予定） 周防灘、豊後水道、響灘

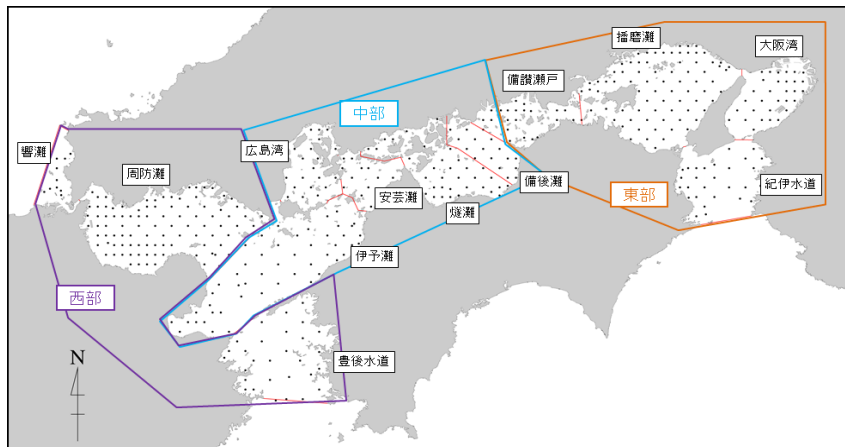


図1 調査海域及び調査地点

3. 平成 27 年度の調査内容

平成 27 年度は、紀伊水道、大阪湾、播磨灘及び備讃瀬戸の 4 つの湾・灘において、表 2 及び表 3 に示す項目について、図 2 に示す地点で調査を実施した。

表 2 平成 27 年度瀬戸内海環境情報基本調査（底質調査）の調査項目等

区分	底質調査
調査位置	155 地点（紀伊水道(28)・大阪湾(31)・播磨灘(78)・備讃瀬戸(18)）
調査項目	現場測定項目：調査位置、天候、気温、水深、泥温、外観、臭気、色相 酸化還元電位（Eh） 分析項目：含水率、粒度組成、IL、COD、TOC、T-N、T-P、T-S
採取箇所	海底の表層土

表 3 平成 27 年度瀬戸内海環境情報基本調査（底生生物調査）の調査項目等

区分	底質調査
調査位置	155 地点（紀伊水道(28)・大阪湾(31)・播磨灘(78)・備讃瀬戸(18)）
調査項目	底生生物（マクロベントス） ；種の同定、個体数計数及び動物門別湿重量の測定
採取箇所	海底の表層土

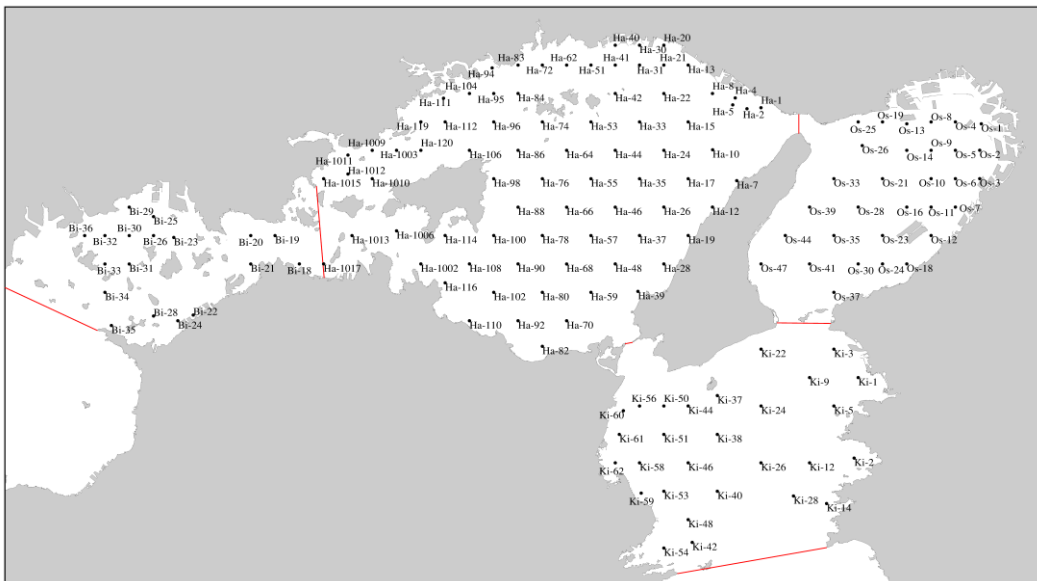


図 2 平成 27 年度瀬戸内海環境情報基本調査（底質調査）の調査地点

Ⅱ 藻場・干潟分布状況調査について

1. 調査の位置付け

これまで、瀬戸内海における藻場・干潟の分布調査は、自然環境保全基礎調査（環境省）等が行われているが、調査実施以来、10年以上が経過している現在においても現状の藻場・干潟の分布情報として利用されていることが多い。

そのため、近年、技術向上が進んでいる衛星画像の解析手法を用いて、瀬戸内海における藻場・干潟分布の調査を行う。

2. 調査計画

調査期間は平成 27～29 年度の3年間とし、瀬戸内海を3ブロック（東部、中部、西部）に区分し、1年につき1ブロックの調査を実施する。

平成 27 年度	紀伊水道、大阪湾、播磨灘、備讃瀬戸
平成 28 年度（予定）	備讃瀬戸（一部）、備後灘、燧灘、安芸灘、広島湾、伊予灘
平成 29 年度（予定）	周防灘、豊後水道、響灘

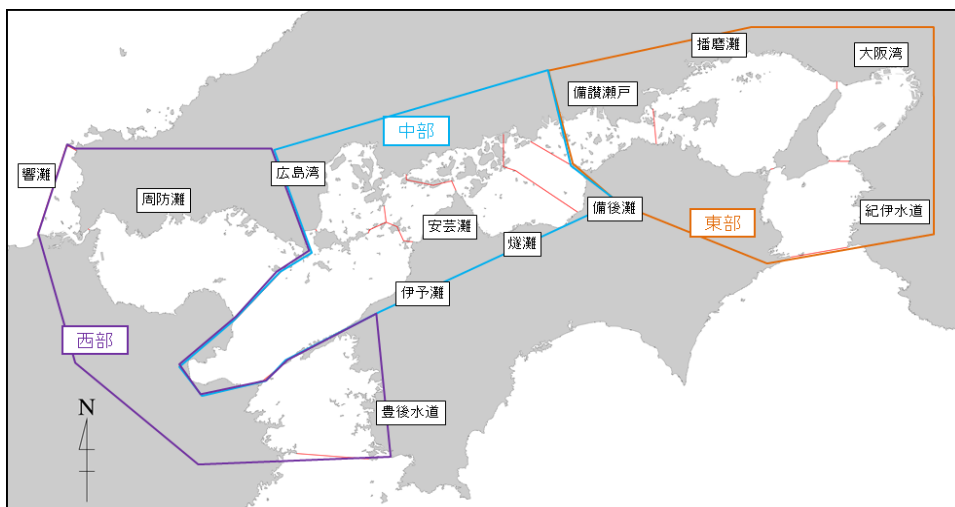


図 1 調査海域及び調査地点

3. 平成 27 年度の調査内容

平成 27 年度は、紀伊水道、大阪湾、播磨灘及び備讃瀬戸の4つの湾・灘において、衛星画像の解析、現地調査により藻場・干潟の分布状況の調査を実施している。

使用衛星：RapidEye Earth Observation Constellation
(分解能 6.5m (オルソ処理後のピクセルサイズ：5m))